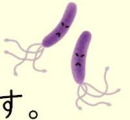


ピロリ菌を除菌しましょう

ピロリ菌の正体は？

- 胃の中の他に土や水などにいる、正式名称を「ヘリコバクター・ピロリ」という菌です。
- 大きさは、4/1000 mm程度で、「べん毛」と呼ばれるしっぽのようなものをくるくるまわしながら動きまわります。
- 一般的な菌は、胃が食物を消化するために分泌している強い酸性の胃液（胃酸）の中では生きられません。しかし、ピロリ菌は自分のまわりだけ胃酸を中和することで生き延びます。



どこから感染するの？

- ピロリ菌は、口から体の中へ入って胃の粘膜に棲みつきます。
- 一般的に、胃の免疫力がまだ強くない幼少期に感染することが多く、家庭内で親から子へ感染することも多いといわれています。
- 特に幼少期のお子さんへの感染を防ぐため、食事の時に他の人が食物を噛み砕いて与えたり、同じ箸やスプーンなどを使うことは避けましょう。



日本人の感染者数は？

- 近年は衛生環境が整ってきたため、ピロリ菌に感染している人の割合は徐々に減少してきています。しかし、日本人でピロリ菌に感染している人は、少なくとも3,000万人以上といわれています。特に50歳以上の日本人は感染率がとても高いといわれています。



胃炎や消化性潰瘍との関連は？

- ピロリ菌は、胃の内壁に炎症を起こし、胃を守っている粘液を減少させます。そのため胃が胃酸の影響を受けやすくなり、胃炎や消化性潰瘍を発症します。
- 胃炎や消化性潰瘍だけでなく、除菌することで胃がんの発症も予防する効果が期待できます。

なぜ除菌するの？

- ピロリ菌の感染者は胃がんのリスクが5倍になると報告されています。
- 胃がんの8割は、ピロリ菌の感染が原因であるとされています。しかし、ピロリ菌を除菌することにより、胃がんの発症リスクが3~4割減少すると報告されています。（世界保健機関（WHO））
- 胃がんは、がん全体の中で罹患数*が上位となっています。山梨県では毎年、700人以上の方が罹患しています。（山梨県地域がん登録）
*罹患数: 一定の期間に、新たにがんと診断された数。
- ピロリ菌は、一度感染すると除菌しない限り、生涯にわたって胃の中に棲み続けます。



検査の方法は？

ピロリ菌の感染検査には次の6種類があります。

1. 内視鏡を使った方法

① 迅速ウレアーゼ試験

ピロリ菌のもつウレアーゼという酵素の有無で診断します。

② 鏡検法

顕微鏡で観察してピロリ菌がいるか調べます。

③ 培養法

培地で増殖させピロリ菌が存在しているか調べます。



2. 内視鏡検査によらない方法

④ 抗体検査

血液や尿中のピロリ菌に対する抗体の濃度から診断します。菌がいなくなっても陰性と確認できるまでに時間がかかります。

⑤ 尿素呼気試験

検査薬を飲む前後で、息を採取し、比較することで診断します。

⑥ 便中抗原測定

便中に存在するピロリ菌の抗原の有無を調べます。



※どの検査を行うかについては、検査の目的などにより適切な方法がありますので、**医師に相談することが重要**です。

除菌の方法は？

- ピロリ菌の除菌治療は、医師の診断のもと、3種類の除菌薬を朝と夕の2回、1週間、飲むだけです。
- 除菌薬は、胃酸の分泌を抑える胃薬(プロトンポンプ阻害薬)と2種類の抗生物質を用います。
- 1回目の除菌治療で8割以上の方が除菌に成功しますが、個人差があります。
- 除菌治療中の服薬により、下痢・軟便、味覚異常、皮膚の異常などの副作用が少数報告されています。除菌の際は必ず医師と相談してください。



除菌成功後も、感染していない人よりも胃がんを発症するリスクが高いとされています。

早期発見し、早期治療につなげるため、

除菌治療後も定期的ながん検診は必ず受けてください。